

## 1 設置の趣旨・必要性

---

### (1) 地域の状況

兵庫県は、歴史、風土、産業などの違う摂津（神戸・阪神）、播磨、但馬、丹波、淡路の個性豊かな五国から構成され、北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続き、大都市から農山村、離島まで様々な地域と多様な気候と風土を有することから「日本の縮図」と言われている。

これら五国の自然、文化、伝統芸能、食等の「ひょうごオンリーワン資源」を活かしたツーリズム、健康やものづくりなど地域に根ざした産業と結びついたツーリズムなど、兵庫ならではのツーリズムが展開され、国内外から人々が訪れ、兵庫を体感している。

このうち、専門職大学の設置を予定している兵庫県北部の但馬地域は、コウノトリ但馬空港をはじめ、北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道といった社会基盤が整備され、交通の利便性も飛躍的に向上している。コウノトリが舞う美しい田園風景、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパーク、日本遺産に認定された近代化産業遺産「鉱石の道」など、世界に誇る多彩な自然、風土、歴史、産業等の豊かな地域資源が存在しており、多様なツーリズムの可能性を有するとともに、都市住民がストレスフルな都市環境から解放され、安らぎを得られる場としても期待される場所である。

また、兵庫県は、芸術文化振興ビジョンの下、「芸術文化立県ひょうご」の実現に向け、芸術文化が息づき地域を元気にする社会づくりを推進しており、芸術文化センター、尼崎青少年創造劇場「ピッコロシアター」等、県民が芸術文化に親しみ、表現する場が県下各地に整備されている。

特に、但馬地域においては、近畿最古の芝居小屋「永楽館」の歌舞伎や「葛畑座」を舞台とした“せきのみや子ども歌舞伎”など脈々と伝統文化が息づいており、また、「城崎国際アートセンター」に滞在する国内外アーティストによる創作活動、試演会など、様々な芸術体験を通じ、但馬全域を壮大な舞台として多様な主体による交流の拡大と、国内外に向けた但馬、兵庫の魅力発信が進展している。

### (2) 背景

#### <変化する時代、社会への対応>

時代、社会の移り変わりに伴い、「モノ」消費から「コト」消費へとパラダイムが転換している中であるからこそ、既存の文化、産業、社会、ライフスタイル等の概念にとらわれず、世界につながる新たな付加価値を創造できる人材の育成が求められている。

また、地域の産業をリードし、地域の稼ぐ力を引き出す日本版DMOに期待が集まっており、これを担う人材育成が必要であるとともに、関西が一体となって「アジアの文化観光首都・関西」を目指し、国際観光振興と文化振興を推進する中、観光と芸術文化で事業創造できる次世代を担うプロデューサーの育成が急務となっている。

### ＜変化する地域への対応＞

多彩な観光資源を有する兵庫県においては、これらの資源を最適に組み合わせた、より魅力の高い観光地域づくりが必要であり、その担い手となる人材の育成が急務となっている。あわせて、芸術・文化的な感性を持って地域資源を活かした多様なイノベーションやしごとの創出が喫緊の課題となっている。

一方で、但馬地域には4年制の高等教育機関がなく、少子高齢化の進む中、若者の都市部への流出が顕著となっている。地域創生の観点から、地域を担う若者の確保、地域の人材への投資拡充、若者のアイデア、機動力を活かした地域の活性化につながる取り組みが求められている。

### ＜地域文化拠点の活性化＞

劇場等の文化施設は、人々が集い、感動と希望をもたらし、創造性を育み、共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。しかしながら、劇場等の施設で営まれる文化芸術活動もいわゆる貸し館公演が中心であり、舞台芸術の創造活動の実施や鑑賞機会の提供など、劇場等の持つ本来の機能が十分発揮されていないとの指摘もある。そこで、平成24年6月、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（平成24年法律第49号）が制定され、劇場等をいわば「公共財」として守り育てていくとともに、そこで行われる舞台芸術に関する活動、事業等を行うために必要な人材の養成、確保が求められている。

## （3）必要性

### ① 但馬地域をフィールドにした観光地域づくりの展開

但馬地域は、山陰海岸ジオパークをはじめ、美しい自然や遺産、脈々と息づく歴史や伝統文化など、魅力あふれる多彩なツーリズム資源に恵まれており、多様化する旅行者のニーズに応え、テーマ性・ストーリー性のある「コト消費」にマッチしたツーリズムを具現化することができる。

そのために、地域と大学が一体となって、地域の稼ぐ力を引き出せるDMOを拠点としつつ、様々な地域資源を最適に組み合わせた観光地域づくりに取り組む。

**② 舞台芸術の創造活動による豊かな地域社会の実現**

高度経済成長期に整備された劇場・文化ホール等の建替需要が高まる中、そのリニューアル期を捉え、施設の機能強化、活性化等による舞台芸術の創造活動の充実を図り、もって心豊かな県民生活及び活力ある地域社会の実現に取り組む。

**③ 観光と芸術文化で新たな価値を創造する知と人材育成の拠点**

但馬地域において、観光と芸術文化で地域の魅力を最大限に引き出し、新たな価値を創造することで地域の課題に応じていくオープンプラットフォームを形成するとともに、その担い手となる専門職業人材を育成する。

## 2 大学の理念

---

### (1) 基本目標

舞台芸術の学修で得たコミュニケーション力などを基礎として、地域を支える多様な主体との連携を強化し、協働しながら多彩な地域資源を活かし、芸術文化を通じた新たな価値を創造することができる専門職業人材を育成する。

あわせて、大学と地域が一体となって創造するイノベーションで課題解決を図るプラットフォーム機能を発揮し、地域の発展と繁栄、ひいては新たな国際社会の形成、人類の幸福に貢献する大学となることを目指す。

### (2) 目指す大学像

- ① 兵庫県の地域資源を活かしたビジネスやアート分野で新たな価値を創造できる自立した人材を育成し、地域の経済的発展、芸術文化を通じた豊かな県民生活の実現に貢献する大学を目指す。
- ② 舞台芸術の技法を活かしたコミュニケーション力の向上に取り組むとともに、地域産業の現場での実習を中心とした学びを通じて高度な専門職業人材を育成する大学を目指す。

### (3) 既存大学との違い

#### ① 「ジョブ型」雇用に対応した専門職業人材の育成

第4次産業革命による産業構造や就業構造の変革、急速なグローバル化に対応した雇用形態として「ジョブ型」雇用が注目されている。本学では、観光に求められる「ホスピタリティ」、芸術文化を生み出す「クリエイティビティ」、事業創造に必要な「マネジメントスキル」という3つの専門的かつ高度な知識・技能を兼ね備えた「ジョブ型」雇用に対応できる専門職業人材を育成する。

あわせて、その知識・技能をもって、自ら新たな事業の創出、新規市場の開拓に挑戦する、実践力、機動力のある人材を育成する。

#### ② 事業活動現場における実践教育中心の教育課程

理論にも裏付けられた実践力の育成を図るために、地域の産業界と密接に連携し、事業活動現場での実践的な教育を強化し、大学での座学講義と相互にフィードバックして学びの深化を図る。

### 3 教育目標

---

#### (1) 育成する人材像

コミュニティを取り巻く環境や社会ニーズの変化に柔軟かつ的確に対応できる思考を持ちながら、戦略的視野に立って自らスタートアップに挑戦、また組織の業務改革を企画、実行できる、次に掲げる専門職業人材を育成することを目標とする。

- ① 舞台芸術の学修から得られる豊かな感性やコミュニケーション力等を基礎として、多彩な地域資源の魅力を最大限に引き出した観光ビジネスモデルを創造できる人材
- ② 公共文化施設等のアートマネジメントやパフォーミングアーツの創造・実践活動にあたりながら、アートと地域をプロジェクトマネジメントでつなぎ、社会に新たな価値を創造できる人材

#### (2) 卒業までに身につけるべき能力

教育目標を達成するために、次の能力を修得できる教育を展開する。

- ① 観光・芸術文化に関する専門職業人材として必要な実践的な知識・技能
- ② 多様化、グローバル化が進展する中で、個性を発揮し魅力ある豊かな地域社会の実現に資するグローバルリテラシー（コミュニケーション力を含む）
- ③ 高度な情報処理技能を駆使しながら、地域の諸課題の解決に必要な情報を適切に収集、分析し、イノベーションを創出することで、その課題の解決を図る意欲と実践力
- ④ 専攻する領域の知見・技術をもとに、論理的かつ合理的思考に基づくマネジメント能力を発揮し、観光・芸術文化による事業創造を通じた稼ぐ力
- ⑤ 観光・芸術文化への強い関心と、社会や地域の担い手としての自覚を持ち、高い職業倫理のもとで専門的知識・技能を生かした責任ある行動

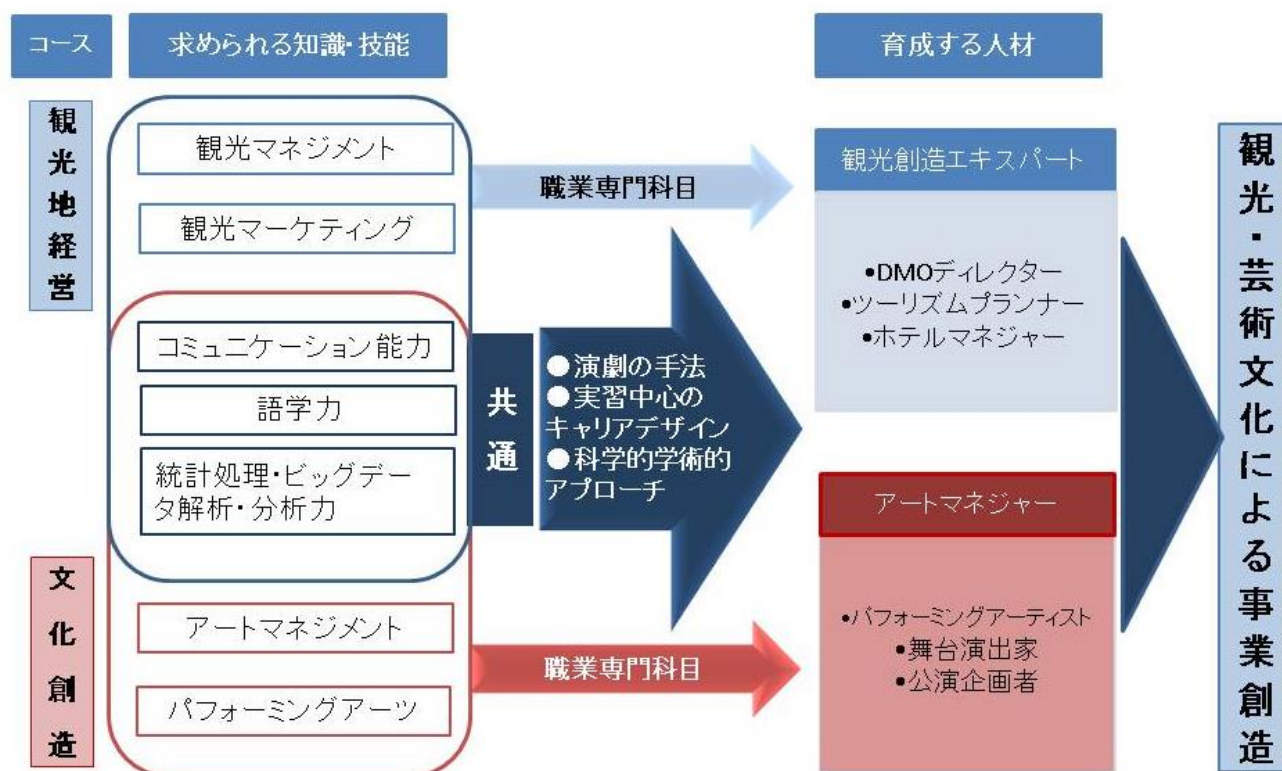
## 4 大学の特色

### (1) 国公立大学初、演劇を本格的に学び、これを基礎に観光・芸術文化分野で事業創造する高等教育機関

国公立大学で初めて、本格的に演劇を学ぶことが出来、その学びを基礎に観光と芸術文化分野により事業創造を展開する新たな専門職業人材を育成する4年制高等教育機関を創設する。

観光と芸術文化を2学科で展開するのではなく、1学科でのコース制により教育課程を編成する。地域において魅力ある資源を活かし新たな価値を創造するという観点から、観光と芸術文化を素材として、多角的に思考する力を培うとともに、実践的な課題解決力を修得させ、事業創造を担う人材を育成する。

効果的な修学を行うため、入学定員は80人、収容定員は320人とする。



### (2) 演劇の手法を取り入れたコミュニケーション力の強化

1年次には全員が「演劇コミュニケーション演習」を履修し、実際に身体を動かすワークショップ形式の授業を織り交ぜながら、実践と理論を通じたパフォーマンスアーツの全体像を学び、現代芸術の本質について理解を深める中で、学生のコミュニケーション力を磨き、現代社会を生きぬく人間力を養っていく。

### (3) 自立する力を磨き、生きる力を身につける事業創造支援の展開

#### ① 社会・地域ニーズにフォーカスした教育の実践

##### 【観光地経営】

地域の産業をリードし、地域の稼ぐ力を引き出すことができる日本版DMOに対する期待がますます高まる中、多様な主体との合意形成を図りつつ、様々な地域資源を最適に組み合わせた観光地の一体的なブランディング、魅力ある情報発信・プロモーション、実効性の高い観光戦略を進める、観光地経営を担う人材の育成が急務となっている。

本学は、地域住民、産業界、行政等が一体となって旅行者を招き入れる観光地域づくりのプラットフォームとしての機能を発揮するとともに、機能強化を図られたDMOを中心とした観光地経営に焦点を絞った教育を行い、観光地経営の担い手となる専門職業人材を育成する。

##### 【文化創造】

従来型の貸し館公演中心の文化施設運営に対する反省も踏まえ、文化事業の効果的な企画・制作、文化施設の魅力ある運営など、アートマネジメントに対する関心が一層高まっており、芸術の創造サイド及び芸術の享受サイドの両者をつなぐ役割を担うアートマネジャーの育成が急務となっている。

なお、パフォーマーが自立するために、また、文化施設において質の高いパフォーマンスを持続的に提供していくためには、収益性も視野に入れた運営が必要となる。

本学は、県民ニーズに即した劇場・文化ホール等の運営支援のほか、地域文化政策の計画・推進支援など、地域の文化振興に係るプラットフォームとしての機能を発揮するとともに、アートマネジメントを中心に持続可能な地域の文化創造に焦点を絞った教育を行い、アートマネジャーや実演芸術の創造活動の担い手となる専門職業人材を育成する。

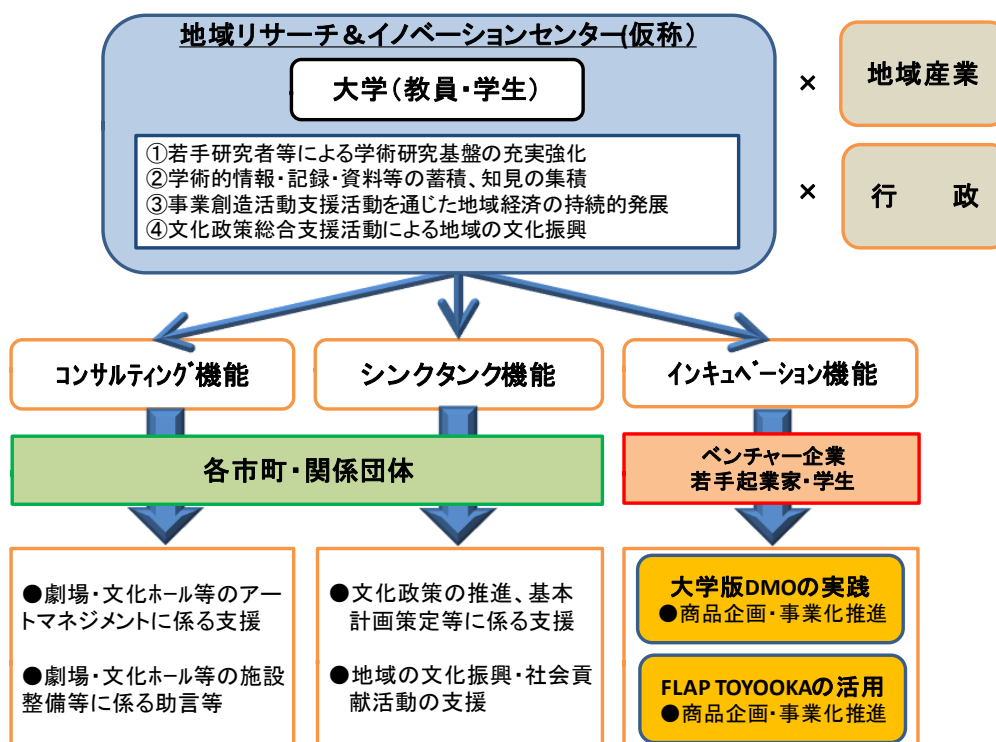
#### ② 地域課題の解決を実現するプラットフォーム機能

オープンプラットフォームの役割を担う拠点施設として、コンサルティング機能、シンクタンク機能、インキュベーション機能を持ち合わせた地域リサーチ&イノベーションセンター（仮称）を学内に設置する。

また、インキュベーション機能として、コワーキングスペース「FLAP TO YOOKA」を効果的に活用し、大学版DMOによる企画開発など、事業創造活動を通じて地域の活性化に貢献する。

あわせて、この地域リサーチ&イノベーションセンター（仮称）については、

コンサルティング機能を有するハブ施設として、県下の劇場等における充実した文化芸術活動を支援するとともに、シンクタンク機能を発揮し、地方自治体の文化政策に対する総合的な支援を展開することで地域の文化振興に貢献する。



#### (4) 次代を担うグローバル人材の養成

急激なグローバル化や国際環境の大きな変化に適切に対応し、積極的な役割を果たし、これからの国際社会において経済的、文化的地位を維持、発展させ、活力ある地域を保ち続けていくためには、高い語学力と国際的に通用する専門知識・技能を兼ね備えたグローバル人材の育成が不可欠である。

インターネット、SNS等の普及により、地域や個から世界に向けて情報発信ができる今、ローカルな特性が生み出す独自のモノや価値こそ、グローバル市場で輝く可能性を有している。

そこで、次代を担うグローバル人材の養成に向けて、グローバルリテラシーを培うために、専門職業人材として活躍できる実践的な語学教育、学生全員が体験できる海外留学プログラム、学生寮における留学生との交流促進等を実施する。

#### (5) 実習中心の実践的な教育課程

兵庫県が世界に誇る文化施設や多彩な地域資源を活用した、地域産業と連携した充実した実習プログラムを展開する。地域の自治体、関係団体と学生が一体と



なって国際演劇祭を運営するなど、現場での体験実習に重点を置いたアクティブラーニングによる実践的かつ体系的な実習プランを提供する。

なお、十分な実習時間を確保し、その効果を高めるために、クォーター制を導入し、第2、第4クォーターにおいて独創的な集中プログラムを配置する。

## 5 教育内容・方法

### (1) 60分授業による実習・演習を中心としたクォーター制の導入

学期制は、1学年365日を4期に区分するクォーター制を採用する。

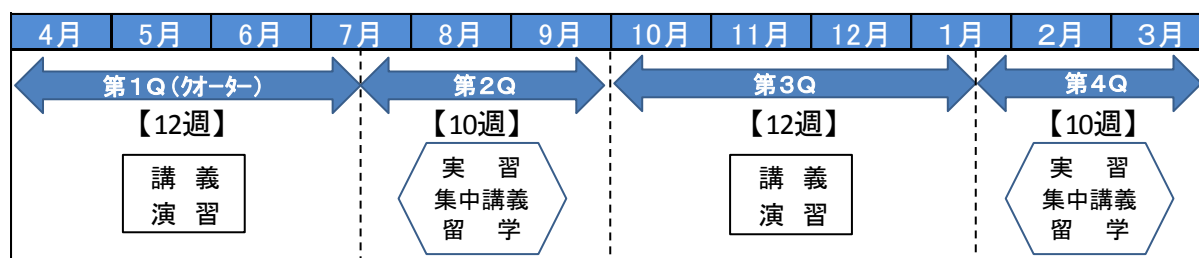
第1クォーター及び第3クォーターは、12週で編成することとし、講義、演習科目を配置する。

第2クォーター及び第4クォーターは、10週で編成することとし、著名な講師による集中講義を実施するとともに、臨地実習及び海外留学プログラムへ参加する期間とする。なお、この期間は、学生の興味や関心に応じた選択制による学修機会を提供することにより、留学やボランティアなど学生の主体的な活動に充てることを可能とする。

授業時間は1授業を60分とする。

授業は、講義を中心とする学修、演習を中心とする学修をセット（60分+60分）するなど、学生が主体的かつ能動的に学びを深めることができるしくみを導入する。

このように、クォーター制による講義と実習との体系的なカリキュラムの編成、60分間の2コマ連続による授業の実施により、教育効果を極限に高めていく。

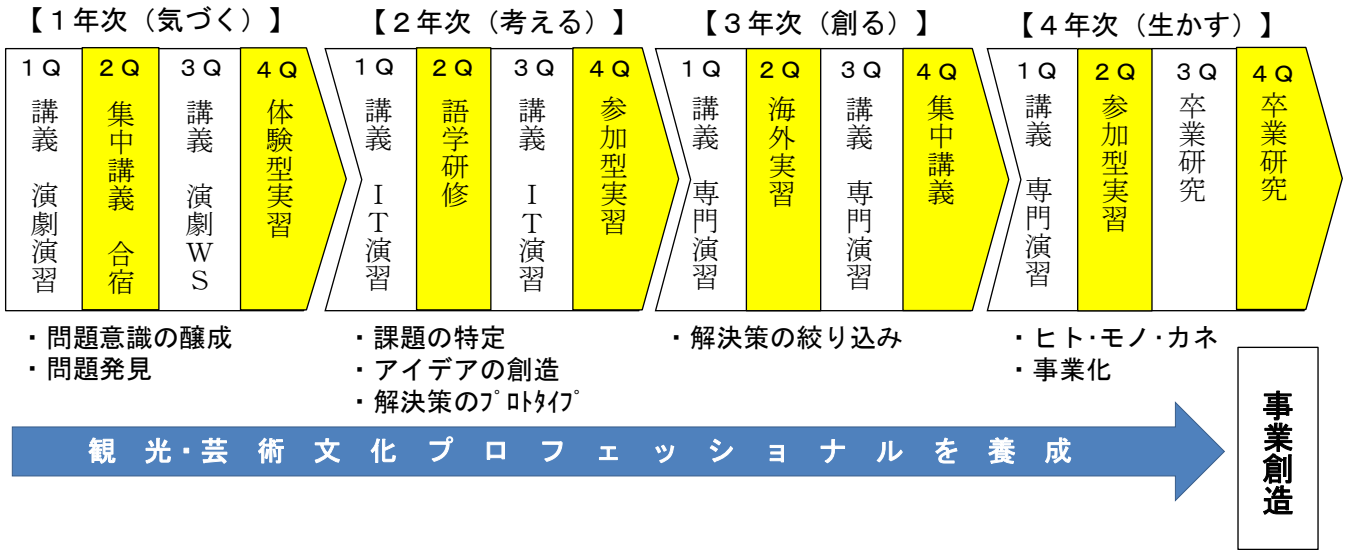


### (2) 新たな価値創造を実現する学修内容

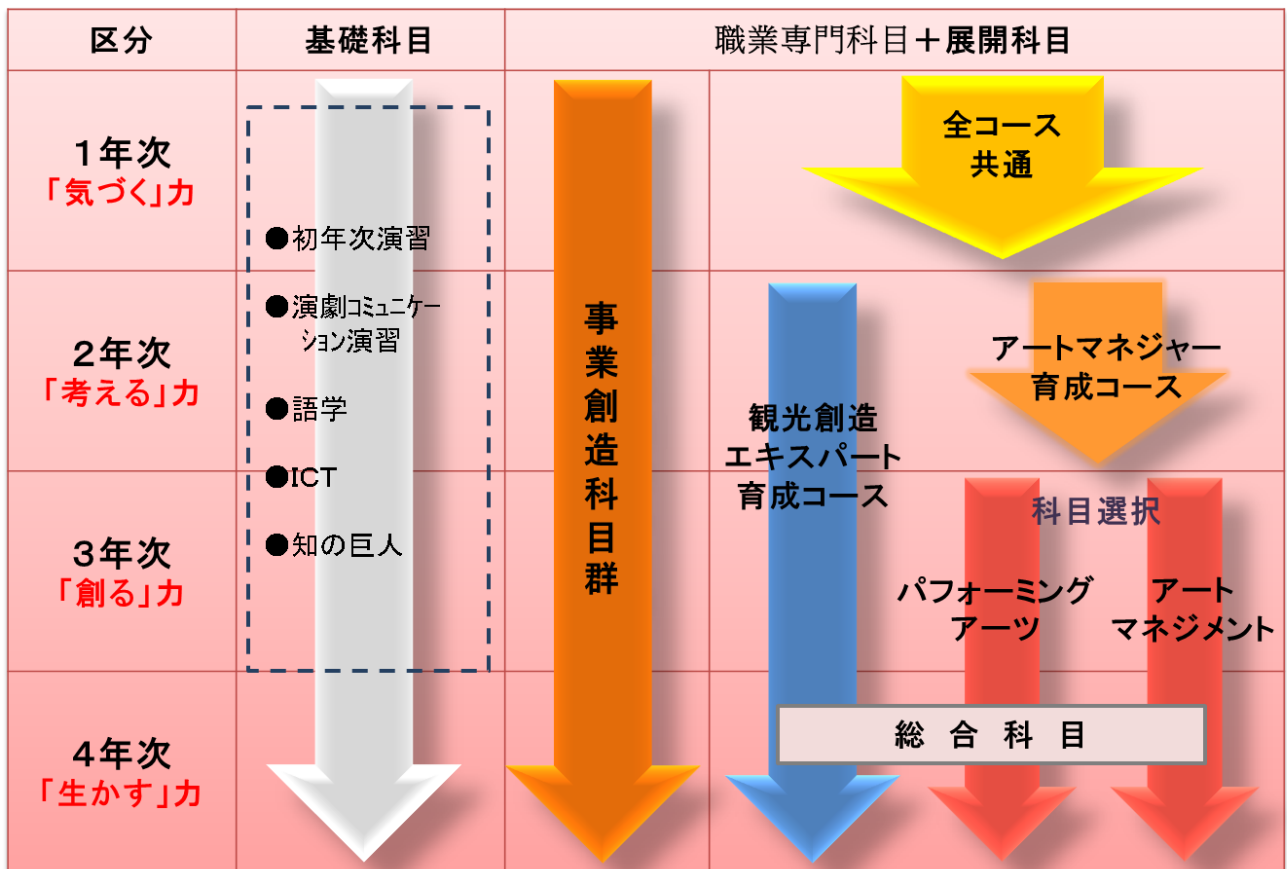
クォーター制の特徴を生かしつつ、年次に応じた適切な学修内容を組み合わせることにより、1年次は問題を発見する「気づく」力、2年次はその中から課題を特定し、解決に向けたアイデアを創造する「考える」力、3年次は解決策を絞り込む「創る」力、4年次は「ヒト」「モノ」「カネ」を最適にマネジメントし、解決策に息を吹き込み、実現性のあるプロジェクトに仕立てていく「生かす」力を効果的に身につけることができる学修内容を設定する。

このように、4年間の学びを通じ、観光と芸術文化が融合した新たな価値を創造し、自らの夢や志を実現する力を育成するために、職業専門教育について、1年次は観光・芸術文化分野でコースを分けることなく共通で両分野を学修することとし、全学年を通して両コースともに事業創造科目を履修する。

## 《学修イメージ》



## 《履修科目構成イメージ》



### (3) 多角的に思考する力と実践的課題解決力を培う教育課程

#### ① 「気づき」を与え、学びを深めるリベラルアーツ関連科目

従来型の「人文」「社会」「自然」といった教養科目ではなく、社会における様々な課題への関心と課題探求力を高めるため、著名な講師による講義など「知の巨人に触れる科目」の設定や、演劇の手法によるコミュニケーション演習の実施など、特色あるリベラルアーツ関連科目を設定する。

#### ② 事業創造に繋がるICT教育

地域課題を解決するために、学生が自立的、自発的に必要な情報を吟味し、収集・処理した上、結果を分析できる能力を養い、イノベーションの創出に向けたICTに係る知識・技能を修得する。

そのために、課題を明確に特定し設定する能力、情報通信技術やソフトウェアを使いこなすことができる情報リテラシー、プレゼンテーション能力、情報発信技能等を身につけることができる科目を設定する。

#### ③ 応用による価値創造のための関連科目

但馬地域の豊かな自然、歴史、文化などの地域資源等を学ぶ「たじま学」、農業体験、食文化、スポーツ体験を組み込んだ講義・実習など、観光・芸術文化分野の職業専門に関連する知識・技能を活かし応用することで、観光地経営及び文化創造を、より発展的に新たな価値創造に導く科目を設定する。

### (4) グローバルリテラシーの修得

#### ① 専門職業人材として活躍できる実践的な語学教育

卒業時には、観光及び芸術文化分野に係る実践英語を使いこなせる職業人材として、グローバルかつ多様な主体に向けたパフォーマンス、マネジメントができるスキルを修得する。

そのために、TOEICに加えて独自の評価基準・方法を設け、定期的なアセスメントで教学プロセスをフォローしていく。

また、海外での留学体験、インバウンドに対応した実習、留学生等との異文化交流等を活かしつつ、演劇等も採り入れながら「使って学ぶ」プロセスに重点を置いた実践力養成のためのカリキュラムデザインとする。

なお、英語のほか、中国語、韓国語などの語学プログラムを設定する。

#### ② 学生全員が体験できる海外留学プログラム

実践的な対話力や国際感覚を養うとともに、自ら課題解決に当たる姿勢を確立するため、1、2年次は、主に語学研修、3、4年次は、海外の観光・文化施設

での実習など効果的かつ実践的なプログラムを設置する。

### ③ 学生寮における留学生との交流促進

学生寮においては、日本人学生と留学生が共同生活を行い、身近な生活を通じて外国人とのコミュニケーション力を日常的に養うとともに、多様な価値観や異なる文化の相互理解を促進する。

## (5) 起業家精神の育成

観光・芸術文化分野で事業創造をめざす人材を育成する専門職大学として、地域リサーチ&イノベーションセンター（仮称）を活用し、充実した教養教育や実習による課題探求型学修、演劇の手法を用いたコミュニケーション能力演習など、起業家精神を育成する取組を積極的に行う。

また、コワーキングスペース「FLAP TOYOOKA」等と連携し、起業意欲のある学生の在学中及び卒業後の起業を支援する。

## (6) 1年次の原則全寮制

学修に集中できる環境を確保し、学生同士の生活交流を通じて自律性・社会性・コミュニケーション能力を養うとともに、反転授業における事前学習等のグループディスカッションを行う場として学生寮を設置し、1年次の学生は原則全員が入寮することとする。

2年次以降の学生については、希望者の中から選考のうえ1年次の学生の指導役としてレジデント・アシスタントを入寮させ、下級生を指導することで、安全安心な寮生活の確保、リーダーシップの体得を図るしくみとする。

## (7) 充実した学修サポート体制

### ① 初年次ゼミによるきめ細かな指導

大学の学修への円滑な接続を行うとともに、4年間の学修の土台となる基礎を着実に身につけられるよう、1年次に少人数制の初年次ゼミを開設し、担当指導教官によるきめ細かな指導を実施する。

### ② 実習支援

学生が安心かつ円滑に、学修効果の高い実習を遂行できるよう、実習先の確保、アテンド、連絡調整、学生との学修相談、教育補助など実習の事前、事後を含め、学生一人ひとりに対して丁寧かつ的確な対応を図る。そのため、実習支援センター（仮称）を設置し、実習助手を配置する。

### ③ キャリア開発支援

学生個々の適正・能力に基づく将来ビジョンの設定と、その実現に向けた学修面、就職面の支援を一貫して実施できるよう、キャリアサポートセンター（仮称）を設置し支援する。

### ④ 遠隔授業などによる学修機会の提供

他の大学等と連携した授業や遠隔地の講師によるオンライン授業などを実施することにより、多彩で充実した学修機会を提供する。

## （８）社会人の学び直し

県民が、個人のライフサイクルに合わせ、より長いスパンで何歳になっても学び直しや職場復帰が可能となる学習機会を提供するとともに、成長分野等で求められる人材に必要な能力の育成、現場レベルでの改善やイノベーションを牽引していく人材の養成強化に貢献するため、社会人等を対象とした科目等履修制度を設け、学修成果の評価として履修証明を交付する制度を構築する。

## 6 入学者の受入方針

---

以下の方針により、アートや地域資源を活かした新たな価値創造を通じて、自らの夢を実現し、地域の課題を解決しようとする意欲を有する入学者を受け入れる。

- ① 高校までに学習した基礎学力を身につけている人
- ② 専門職大学での学修に必要な柔軟な思考による創造力、判断力、コミュニケーション力を身につけている人
- ③ グローバルな視野をもって異なる文化や多様な価値観に対する理解を深め、交流を促進しようとする強い意欲を持っている人
- ④ 地域の経済活動に積極的に参画し、地域の課題解決に取り組もうとする強い意欲を持っている人
- ⑤ 専門的職業人となるために必要な知識と技能の修得に強い意欲を持っている人

## 7 地域貢献

---

### (1) 地域課題の解決支援

若手研究者、高度専門職業人の人材養成、学術研究基盤の充実強化、新たな価値創造活動の拠点となる地域リサーチ&イノベーションセンター（仮称）が、オープンな体制のもとにシンクタンク機能を発揮し、観光、芸術文化に関する知見、学術的な記録、資料等を蓄積するとともに、地域経済の発展、地域の文化政策の振興に寄与する。

また、地域をフィールドとして学生が実習等を実施し、ともに地域課題の解決にあたることにより、新たな発想に基づく地域活性化への取組が期待できる。

### (2) 地域の小学校、中学校、高等学校との連携

地域の小学校、中学校との連携について、既に、豊岡市では学校と連携したコミュニケーション教育に力を入れており、特に小学校 6 年生と中学校 1 年生では、全員が演劇の授業を受け、通常の学校教育や地域では得られない知的刺激を供与している。また、高等学校との連携について、豊岡総合高校及び浜坂高校では、既に、演劇を採り入れた授業を展開している。

このように、地域の小学校、中学校、高等学校と連携し、専門職大学が、若年段階からワークショップ等を通じた学びや体験に触れることで、地域の児童・生徒を知的に活性化させ、その探究心を自由に展開させ、知的実力を鍛えていくことができる。

### (3) 県民講座等の開設

専門職大学に招聘する著名な知識人による講義について、可能な範囲で県民講座として学外の県民も参加可能とする。

また、県民の生涯学習の場として、大学教員による県民向け講座を開設する。

さらに、大学発の舞台芸術、展覧会、国際芸術祭など、多くの県民に公開する事業を実施し、地域に感動や希望、喜びを提供していく。

## 8 各種センターの設置

学内に以下のセンターを設置する。

※名称はすべて仮称

組織名	概要
実習支援センター	実習先のコーディネートや学生等の実習に係る支援業務を実施
地域リサーチ&イノベーションセンター	地域のシンクタンクとして、観光産業を中心としたイノベーションの支援や文化施設の受託研究など大学の知的資源の活用による地域課題解決の支援を実施。併せて、学生の実習の場として活用
キャリアサポートセンター	学生の将来ビジョン実現に向けた学修支援と就職支援を一貫して実施
国際交流センター	学生への言語教育支援や海外留学プログラム開発・コーディネート、留学生の学修・生活支援を実施
エクステンションセンター	学生の将来ビジョン実現に向けた資格取得への支援を実施

## 9 場所・施設

豊岡市山王町 17 番 10 に建設する。

以下の内容を含む施設整備計画を検討する。また、隣接地に学生寮を整備し、学舎と一体的に運用管理する。

### 【諸室機能の概要】

	主な室等
教育部門	図書室、劇場（舞台運営演習・演劇発表）、スタジオ（身体表現演習）、教室（大中小、連結・分割仕様）、情報演習室、PBL（課題探求型学習）演習室、ラーニング・commons、研究室 等
管理運営部門	事務室、学長室、会議室、キャリアセンター 等
その他	生協等福利施設、電気・機械室 等
学生寮	シェアハウス方式、招聘研究者も含め定員 100 名程度、交流スペースを整備



## 10 開学時期

---

平成 33 年 4 月の開学を目標とする。

## 11 大学、学部・学科の名称

---

国際観光芸術専門職大学（仮称）とし、正式名称は基本構想策定後に決定する。